

## 食料安全保障における作物保護の重要性

廣岡 卓（クロップライフジャパン、旧 JCPA 農薬工業会）

概要：

世界を見れば、パンデミックやウクライナ紛争等により、食料安定供給リスクが顕在化してきている。EU は 2020 年 5 月に「Farm to Fork」戦略を発表していたが、2023 年 11 月に、欧州委員会提案の 2030 年までに農薬使用を 50%削減することを含む「持続可能な農薬使用に関する規則(SUR)案」が欧州議会で否決された。欧州各国で農業者団体の SUR 案等環境規制への反対運動が活発になる中、2024 年 2 月には、欧州委員会委員長が SUR 案の撤回を公表した。11 月に、フランスは、相次ぐ農薬による処理の禁止により、農業関連産業がおかれている行き詰まりに対処する解決委員会の討議再開を発表した。

我が国においても食料安全保障への関心が高まり、2024 年 6 月に、改正食料・農業・農村基本法が施行され、「食料安全保障の確立」等を進めることとなった。同法第 41 条に伝染性疾病等の発生予防等として植物防疫が位置づけられた。侵入病虫害や雑草、病虫害の薬剤抵抗性の発達などの問題もあり、植物検疫の強化とともに、作物保護の重要性がますます高まってきている。

そのような農業環境の変化も踏まえ、当会は、2024 年 5 月に、新ビジョンの公表とともにグローバルな潮流も踏まえ、名称をクロップライフジャパンに変更した。クロップライフには持続可能な農業と食料供給を目指す団体という意味が込められている。新ビジョンに沿って、作物保護に関連する産業界として、安全性と環境に配慮しつつ、農作業の省力化のための新規剤、スマート農業や総合防除に利用できる有効な資材やソリューションの提供に努めていく。

当会の活動において、農薬の安全性と、作物の安定生産に果たす農薬の役割を周知することが重要課題であると考えている。このため、学研の小学生向け学習漫画「作物をまもるひみつ～農薬の役割がわかる～」の作成に協力した。さらに、クイズ王伊沢拓司氏が率いるクイズノックとコラボした YouTube 動画「食の未来を考える」を配信した。具体的な内容は当会 HP（右 QR）を閲覧して欲しい。こうした取り組みを通じて、若い世代を含めた知識探求層に作物保護の重要性や農薬の役割への理解が広がることを期待している。



現在、新規農薬の創薬確率は十数万化合物に一剤と言われ、高額の研究開発費と、10 年以上の期間が必要である。そのため、環境に配慮し総合防除・IPM を推進しながら、農薬の抵抗性管理をしっかり行い、有効な薬剤をできるだけ長く使っていただくことが重要となる。当会では、リーフレット「RAC コードをご存じですか？」「総合防除・IPM はこれからの農業のキーワード」を用いた啓発活動を行っている。

このセミナーでは、そのような趣旨に沿って作物保護の重要性と JFRAC による薬剤抵抗性管理活動について解説する。